市民談話室

幼い子らとの触れ合いから学べるもの

関根寿夫さん（高校前通・会社員・52歳）

美しく澄んだ黒いひとみ、それが幼児なりのちゃめっ気たっぷりに、ファインダーの中に飛び込んできた時は、一瞬、シャッター振れを起こすかと、そんな錯覚を覚えました。白蓮保育園を訪れ、あどけない園児の無邪気なしぐさを夢中で撮っている時のことです。

私がこの保育園を訪れたきっかけは、去る四月、楽しく散歩している園児たちの写真を撮りそれを広報しろねに載せてもらったことからなのです。その時写した園児を思い浮かべながら、自ら引き伸ばした写真の何枚かを届けてやると、保育園の先生代筆の美しい文字で、子どもたちからの便りが届きました。

「おじさん、写真写してくれてありがとう。お母さんがきれいだなあと言いました（ゆかり）」ひろみ、だいすけ、みちる、みんなが思い思いの言葉でつづってくれたうれしい便りです。「おじさん、遊びに来てください。みんなで待っています」と結んだこの便りを読み終わった時には、目頭が熱くなり、好きな写真を通じての触れ合いに心が和みました。

この子らが持つゾクッとくるひとみの美しさ、その源はいったい何でしょうか。それはひたすら家族、仲間、先生、すべての人を信頼し、なにもかもゆだねた心の中の安らぎや、汚れを知らない純粋さの光、輝きであると思います。大人どうしの世界に、果たしてこんな純なひとみの輝きを見出すことが出来るでしょうか。この触れ合いをいつまでもたいせつにし、園児たちの輝くひとみの中から、いつかきっといろいろなことを学びとれると信じています。

活力と魅力ある白根市を安住の地に

富山登美英さん（日の出町・会社員・48歳）

我々がちょっと大きめの子どものころは、次男次女以下の世にいう「優秀な人たち」は、市・県外へ出て、勉学・勤労にいそしむのが、しごくあたりまえのことであった。

ところが近年、子どもや家族も少人数となって核家族化が進み、世相は様変わりした。明るい家庭の一家だんらんを夢見て地元へのUターン現象が見られるようになった。都会志向から地元志向への変遷である。

そんな中でわが地元白根市を見渡すとき、いま一歩の感がする。特に教育・スポーツ・就職などの市民活性化の場の充実が待たれるところである。

だが、これからが白根市の本当の力のみせどころだ。市の行財政のリーダーシップと、市民総参加の積極的な提言とを合致させ、「活力と魅力ある白根市」を実現し、市民だんらんの場を自信と誇りを持って、次代に引き継がれる地元白根市であってほしい。

サツキ　木の成長を楽しみに

小林政博さん（永道町5・会社員・53歳）

六十三年三月、転勤により四年ぶりで単身赴任生活から自宅通勤になり、日曜日は自宅で園芸を楽しんでいるこのごろです。

大先輩の山口さんをお誘いして白根市農協へさつきまつりに出かけました。同行していただいた山口さんはりっぱなサツキ二鉢を買い、私は八百円也で一鉢買いました。

帰宅後、将来の樹形を想像しながら一回り大きな鉢に植え替えを終わって、雑誌、NHKの「趣味の園芸」六月号を開くと、第一ページの第一番目に、私が選んで買い求めてきたサツキと同じ品種が人気品種として紹介されており、満足感と育てる楽しみが、なおいっそう増します。

これから毎年風合戦のころ、我が家では市の木サツキが花を咲かせ、年々りっぱな樹形を整えながら成長することを願い、楽しみにしています。

市民文芸

短歌

夏深く参拝多く不動尊　百度水かけお祈り願ふ　長谷川久二

たちまちにかすみは晴れて　高原の青葉若葉の白樺林　中村京

俳句

花々に囲まれ待ちつ新盆かな　渡辺勤

紫陽花活けて僧持つ父の証　玉木長吉

川柳

プラスマイナスゼロの所に置く友情　長井徳市

初恋の味もドライな缶ビール　中村尚治

気短かの粥ふっくらと炊けませぬ　西条ムラ

初物に狸寝入りをした財布　早川英男

盃を重ね本心さらけ出す　山岡フミ

これからは鈍行でよい妻といる　吉川彰

嫁さんはやっぱり日本人がよい　米野光雄

カロリーが不足している夢二の絵　今井七郎

動揺を隠す咄嗟の咳払い　織田セツ

凡夫婦完結編がまだ書けず　後藤マサノ

色紙書く言葉探している老後　佐藤トミノ

意志表示廻らぬ舌がもどかしい　佐藤ヨキ

味占めた蝶が明日咲く花数え　高橋祐四雄

冬なのにハウス育ちの木の芽和え　竹石甚五

踏台にされても友情まだ続く　田中成子

夫婦仲世間は知らぬままでよい　田村恒夫

グループ紹介㉔

サークル陶炎

好きな顔です。教わる方も真剣そのもの

生活に緊張感と潤いが

公民館が始めた陶芸講座を、3年間終了した人が62年に結成したサークルです。今は、同講座を2年以上経験すれば会員になる資格を得ることができます。

定例活動日は毎月第2・4木曜日ですが、会員数が23人と多くなったことから、午前と午後の2班に分かれて活動しています。

陶芸で大事なことは、窯、土、釉薬（ゆうやく）（色）といいます。焼き上がるのに12時間はかかり、窯の温度は1,260度まで上がります。

陶芸の魅力について細貝渓子会長は「素材が土であること。手作りの茶器などを愛用できること。生活の中に緊張感と潤いが見い出せること」と話します。

講師の石田一平先生は「陶芸活動の環境は整っている方です。好きな人の集まりだけに皆さん熱心ですし、いい雰囲気です」と話します。

作品は文化祭に出品していますが、窯1基、電動式陶芸ろくろ2台を駆使して、今後は市展に出品することを目標にがんばる皆さんです。サークルについての問い合わせは細貝会長（☎373—3036）へどうぞ。

会員の声

相沢トキさん（東町1丁目・主婦）

土に触れてみたくて陶芸を始めました。最初の2・3年はただがむしゃらでした。ろくろに慣れるには8年かかると聞いていますが、自分で作った茶わんでお茶を飲むのは最高ですね。会員は30歳代から70歳代と幅広く、陶芸以外のことでも、いろいろ勉強になって楽しいです。

鋳物師の地蔵様　霊験あらたかなころり信仰

横山計一さん（蜘手典野・無職・70歳）

鋳物師の土堤上に、文政二年建立の供養塔とともに等身大の地蔵様がお堂の中に立っている。この地蔵様、大正の末期土堤下にあったのを、故あって堤防上に上げたとか。その後昭和三十六年の台風でお堂ともども土堤下に転落、お堂は大破したが、地元の熱意で浄財により再建、現在に至っている。毎年八月二十三日の祭礼には五色の旗を立てて、団子や赤飯を供えてささやかに祝っている。

実はこの地蔵様、霊験あらたかで一心にお参りすると、長患いせず、寝たきりにならないそうで、かなりの信者がいるそうだ。会津のころり観音にお参り出来ない人が人目につかないようにしてこっそり願を掛けに来ると聞いている。

地蔵様のお堂がバス停の待合所になっていて、バスが通らなくなった今でも、朝夕の二回だけ、小中学、保育園の子どもたちのバス待ちに使われて重宝がられている。毎月十日の交通安全の日には、早朝から母の会の人が順番に出て、地蔵様といっしょに子どもたちを見守っている。黄色い帽子のバス通園児たちの姿を、地蔵様はかわいくてしかたがないと、細目をあけてほほえんでいらっしゃる。

市民談話室　皆さんのお便りをお待ちしています

市民談話室のコーナーでは、次のテーマで皆さんの声を募集しています。気軽に投稿してください。

九月「味」　グルメブームに沸く昨今ですが、どなたにも忘れられないあの味覚があるのでは。幼い日の味、旅先の名物の味、おふくろの味など、味のあるお話をお待ちしています。

十月「スポーツ」　健康づくりに始めたスポーツや青春時代にすべてを忘れて打ち込んだスポーツ、勝利の喜び、痛恨のプレー、楽しい仲間たちなどのお便りをどしどしお寄せください。

十一月「旅行」　旅先での楽しい思い出、バスの旅、列車の旅、人との触れ合い、名物やみやげ品など、旅行にまつわる皆さんのお便りをお待ちします。

また、テーマ以外でも、皆さんの周りの出来事や、ふだん考えていること、市に対する意見など、これまでと同様にお寄せください。原稿の長さは400字から500字程度としますが、紙面の都合上、文を短くすることがあります。締め切りは前月の15日、あて先は〒950—12　白根市大字白根1235　白根市役所企画調整課広報広聴係です。